

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・ 自主・自律の精神を養う。
- ・ たくましい心身と実践力を養う。
- ・ 豊かな情操と創造性を養う。

2 学校の特徴

(1) 英語コースを核とした進学校

本校は、県内唯一の英語コースを有する普通科単独校であり、英語セミナー、英語スピーチコンテスト、英国語学研修やオンライン語学研修などの語学教育、国際理解教育に積極的に取り組んでいる。その成果として、2学年終了時までには81%が実用英語検定準2級以上を、3学年英語コースの79%が2級以上を、2人が準1級に合格していることや英語プレゼンテーションコンテスト等で毎年優秀な成績を収めていることなどが挙げられる。

昨年度36回目を迎えた英国語学研修は、コロナ以前よりも期間は短縮したが、10日間にわたりホームステイをしながら現地の語学学校に通い、また現地の高校や大学を訪れ語学力の向上と異文化理解の深化を図るもので、他校にはないものである。また昨年度は、アメリカの大学とオンライン授業をおこなった。本年度も継続して行う予定である。

本校では、ほとんどの生徒が大学等の上級学校への進学を希望し、ゆとりのある校舎や広いグラウンド等恵まれた施設・設備において、まじめに学習に取り組んでいる。近年は、国公立大学の合格率が約6割と県内でも実績をあげ、「英語コースを核とした進学校」として評価され、多くの期待を担っている。

(2) 地域に信頼される学校

英語コースの生徒がこども園に出向き、英語で絵本の読み聞かせを行うなど、英語を通して地域との交流を図っている。また、情操教育、ボランティア活動にも積極的に取り組んでおり、地域の芸術文化に係わる行事に参加するとともに、学校行事等を通してこども園児やお年寄りの方々との異世代交流も実施するなど、地域から信頼される学校となっている。また、部活動にも熱心に取り組み、文武両道の精神を実践している。

3 学校の現状と課題

(1) 英語教育のさらなる充実

英語教育では、令和元年度と2年度は「とやまのグローバル人材育成促進事業」、令和3年度は「英語・グローバル教育充実事業」の拠点校に指定され、開校以来蓄積されてきた英語指導のノウハウを検証した。今後はさらに時代に即応した指導法も積極的に取り入れ、引き続きその取組をさらに充実・改善していくことが課題である。

(2) グローバル人材の育成

生徒の学習・進学への満足度は良好であるが、国際社会で活躍するグローバル人材の育成のために、生徒が自ら考え行動して未来を切り開いていく強さと自信を培うよう、教科横断的な学びや時代に即した教育プログラムを一層充実するとともに、教員の指導力をさらに向上することが課題である。

(3) 魅力ある学校づくり

9クラスと小規模校ではあるが、積み上げてきた実績を継承・発展させて魅力ある学校づくりに努め、「英語コースを核とする進学校」「地域から信頼される学校」としての実績を積み重ねるとともに、生徒が文武両道を実践し、「福岡高校に来てよかった」という思いを一層強くする学校としていくことが課題である。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1① 重点1② 重点3②	目標	教育目標に即し、調和のとれた人間形成をめざしながら、学力向上のための指導力を向上し、生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
		計画	①授業を重視し、授業時間の確保に努める。各教科・科目でシラバスを作成し、指導内容の精選と充実を図る。 ②教科面談を個別に行い学習意欲の向上を引き出す働きかけをする。 ③学習への取り組み状況について生徒の自己評価を実施する。それをもとに個人面談を行い、生徒の将来に対する意識を把握する。 ④3年間の追跡調査を実施する。 ⑤つまずきの見られる生徒に対しては面接等を通してきめ細かくアドバイスしていく。
(2)	学校生活 重点2① 重点2② 重点2③	目標	・自主自律の精神と心豊かな情操、集団生活での協調性・責任感そして礼儀を重んじる態度を養う。 ・心身共に健全な高校生活を送らせるとともに、よりよい校風の育成を図る。
		計画	①高校生としての <u>望ましい基本的生活習慣</u> を身につけさせる。特に挨拶等の礼儀、時間の厳守、服装の整備、交通ルール・社会的規範の遵守等の指導を重視する。 ②学習、部活動、学校行事等に積極的に参加させ、協調の精神を培う。その中で豊かな人間性と友人間の信頼関係をつくり、学校生活を楽しく実りあるものにさせる。 ③学年や家庭、地域その他関係機関との連携を密にして指導し、また、必要な調査や研究を行い、生徒の実態把握につとめる。 ④心身の不調を訴える生徒や心に悩みを持つ生徒を早期に把握し、教育相談を実施し、教職員による共通理解のもと支援をする。 ⑤生徒保健委員会が中心となって念入りに清掃を行うことで、生徒の美化意識の向上を図る。
(3)	進路支援 重点3① 重点3②	目標	自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。また、自己の将来の生き方を考えさせ、職業観を育成する。
		計画	①第1学年では、授業を重視する姿勢を徹底するとともに、自分にあった計画を立て、自主的に家庭学習に取り組めるよう段階的に指導する。職業・学部学科調べ、同窓生や保護者などによる講演会（『職業人が語る会』）を通して、 <u>生徒の進路意識の向上</u> を図る。 ②第2学年では、 <u>計画的・継続的な学習態度</u> を定着させ、学力の伸長をめざす。総合的な探究の時間などで、自己の将来や適性について考え、進路目標を立てる契機とする。 ③第3学年では、新課程入試に関する情報を的確に伝え適切な対応を図る。また、生徒一人ひとりの志望にきめ細かく対応するため、 <u>面接・個別指導に重点</u> を置き、保護者とも連携をとりながら指導にあたる。 ④各学年においては、PTA 研修会、保護者対象の大学見学会などにより、保護者との情報共有や共通理解を図る。

(4)	特別活動 重点4① 重点4②	目標	・ボランティア活動を通して、様々な立場の人々に対する理解を深めるとともに、日常生活での相互扶助の精神の浸透を図る。また、社会奉仕や環境美化に対する意識・関心を高める。 ・主体的な委員会活動を継続し、さらに推進していく。 ・全校で読書習慣が身につくよう工夫を行い、生徒が教養を高めるとともに、穏やかで情操豊かな人格の育成を目指す。
		計画	①環境美化活動として、従来通りクラス単位の奉仕活動を行う。また、ボランティア委員会を中心として、駅舎に花を飾ったり、学校の正面玄関等のプランターの手入れを行ったりするなど環境整備を行うほか、町のイベント等の活動に積極的に関わる。 ②ボランティアへの理解を深め、高校生として社会貢献しようとする意欲を高める。 ③図書委員会の生徒が主体的に年間活動計画を作成する。 ④「図書館だより」編集委員会を設置し、生徒のアイデアを生かした魅力的な紙面を作り、図書利用を啓発する。 ⑤生徒が購入図書の選定に参加することで、生徒目線での魅力的な図書を購入する。
(5)	その他 (英語力向上・国際理解教育) 重点5① 重点5② 重点5③	目標	・英語の教科指導・課外活動・学校行事（スピーチコンテスト、英語セミナー）等を通じて、自分の考えを英語で表現できる生徒を育成する。 ・教科指導・特別活動・海外語学研修等を通じて国際理解を深め、情操豊かな人間の育成を図る。
		計画	①英語による Input および Output の量を増やし、自分の意見や考えを英語で表現する活動に重点を置く。 ②パフォーマンステスト、実用英語技能検定、GTEC などを活用し、客観的な指標により自らの英語4技能のバランスを確認させることで、学習への意欲を喚起する。 ③日頃の学習実践の場として、英語セミナー、英語スピーチコンテスト、外部講師による講演会やワークショップを充実させる。教科（英語・地歴など）・学校行事（英語セミナー・英語スピーチコンテスト・講演会）等において、指導目標の中に国際理解を具体的に盛り込む。 ④海外語学研修に関しては、国際情勢や物価等を考慮しながら、より充実した研修内容となるよう企画検討する。 ⑤研修の報告書や報告会をととして、全校生徒に国際理解を啓蒙する。